



今回は 探究活動を生かした進路実現 その3 の報告です。

◇ 津田幸輝さん（早稲田大学人間科学部人間環境科学科）の体験記！

おもな活動記録

- ・2019年度 第2回ダイバーシティSEKIシンポジウム 企画・運営
 - ※ LGBT問題に関わる啓発活動
- ・硬式野球部主将

私は、春から早稲田大学人間科学部人間環境科学科で新たな一步を踏み出すことになりました。将来やりたいことが具体的ではなかった私は、関高校が行う SGH 活動を通して様々なことに興味を持つことができ、進みたい学部を定めることができました。ここでは、SGH 活動の素晴らしさを含めた、私が高校で学んだことや経験を少しでも伝えられたらと思います。

SGH活動 ～LGBTに関わる活動を通して～

私は、2年生の SGH 活動でジェンダー平等についての研究をしました。なぜこのテーマを選んだかという、ニュースなどのメディアを通して「LGBT」という言葉を頻繁に耳にするようになり、それが何なのか気になっていたからです。ただそれだけの理由でした。

私たちのグループでは、ジェンダー平等の中でも、LGBT の人たちに絞って研究をするようになりました。最初はインターネットや本を使って知識を得ていましたが、それだけでは不十分だと感じ、関高校が主催している「さくら塾」に参加して当事者の話を聞くことにしました。そこでは、当事者の心の声を聞けるという貴重な体験をすることができ、私の考え方や価値観に大きな影響を与えてくれました。そして、そこでの交流や、前年に同じテーマの研究をしていた先輩たちの活動のおかげで、関市役所や中部学院大学の協力のもと、ジェンダー平等をテーマとした小学校低学年向けの紙芝居を作成することになりました。LGBT に対する偏見を無くし理解することは、子どもが幼いうちに学ぶべきだと考えたからです。ストーリー構成や言葉選び、助詞1つ1つにまでこだわること、聞き手に先入観や偏見を与えないようにするなど、LGBT 当事者や市役所の方、中部学院大学の紙芝居サークルと何度も話し合いを重ねて紙芝居を完成させました。現在この紙芝居は、関市内 19 の小学校に置かれて活用されています。

この活動に加え、県が主催する SGH 活動の成果発表会への参加、市役所と連携して、パネルディスカッションや紙芝居発表を行ったダイバーシティ SEKI シンポジウムの主催などの活動もしました。これらの活動は真剣に SGH 活動をしたからこそできたことだと思うし、これらの経験から学ぶこと、感じることは日常では味わえないことだと思います。そしてここでの経験は、必ず何かしらの形で自分の財産になります。私の場合はそれが志望学部の決定、進路実現に少なからず影響を及ぼすものとなりました。テーマはなんとなく選んだ感覚に近かったけど、SGH 活動を真剣にやることで、そんなテーマに興味・関心を抱くようになり、価値観さえも変わりました。学校の勉強は大変だと思うけれど、自分を成



や背景、経営の知識を学び、どのような分野・方向性の会社を企業・経営するかを考えたいと思っています。

私は早稲田大学を合格するのに、SGH 活動がとても力になってくれたと私は思っています。志望理由に影響を及ぼしたこともそうですが、SGH 活動自体が大学へのとてもよい自己アピール材料になってくれたからです。この活動は全国すべての高校が実施しているものではないため、活動そのものにも価値のあるものだと感じました。もちろん勉強も大切で、学力や成績はある程度は必要です。あくまで勉強が基本ではありますが、それに加えて SGH 活動や部活動の成果など、特筆すべき成果は多ければ多いほど受験には有利になると思います。私は、日々の積み重ねが合否に直結すると感じたので、後から後悔しない進路選択ができる日常を作りたいと思っています。

最後に

高校生活での全ての勉強、経験、学びは知らず知らずのうちに自分の力になり、自分を成長させてくれます。私は、どんなことでも、無駄なことは何ひとつ無いと思っています。成功しても失敗しても得られることは必ずあります。早稲田大学への進学を決める前に他の大学を受験し、それを失敗した私は、自分の準備が甘かったと後悔しました。今でもその後悔が完全に無くなったわけではありません。今度はその失敗を無駄にしないようにと、その経験を生かして早稲田大学合格を手にししました。ですが、大学受験で私のように挫折を味わうのではなく、第一志望合格を掴み取ることができれば、それ以上よいことはありません。失敗は必ず力になりますが、悔いが残らないことが1番です。そのためにやるべきことを考え、自分に厳しく実行できる人は強いです。

長くなりましたが、私は、やりたいことが定まっている人も定まっていない人も、後悔の無い進路選択をして欲しいと思っています。やりたいことが定まっている人はその目標に向かって、定まっていない人は人生の選択肢を1つでも多く持って、不自由なく進路を選べるように毎日を過ごして欲しいです。



麗沢瑞浪戦。1回裏2死2塁、先制の適時二塁打を放ち、応援席にガッツポーズ。(関市民球場にて)